

②自作アプリを活用した事例

表2-2-1で示したようにB盲学校では大阪教育大学との連携によりICT教育を進めている。その一環として大阪教育大学が作成したiPad用のアプリ*iTester*を用いて理科の実験を行っている。*iTester*は電流・電圧測定装置で、その特性を活かしてワンタッチでアナログ表示とデジタル表示を切り替えることができるほか、iPadの特性が十分に活かし生徒の見え方に合わせて自由に拡大したり、白黒反転したりすることができる。

さらに*iTester*には測定結果をVoice Over機能で読み上げる機能も備わっている。電圧計や電流計の数値をアナログ表示できる利点は、電流や電圧の強弱を針の揺れの大きさに直感的に把握できることにあり、その点においても非常に優れたアプリケーションであると言える。

実際の授業では、強度の弱視生徒がiPadに映し出された*iTester*の針の揺れを画面を拡大して読み取っていた。(図2-5、図2-6)

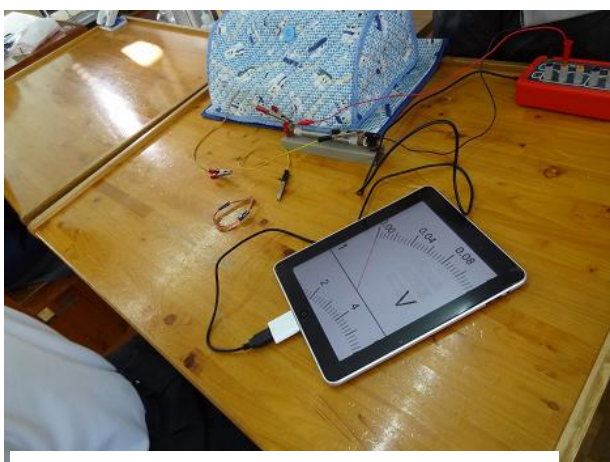


図2-5 *iTester* を用いた実験装



図2-6 iPadの画面を読み取っている生徒

※ 本事例(特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例)は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-291 特別支援学校(視覚障害)における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究—ICTの役割を重視しながら—」(平成26年3月)、106-107に記載された内容である。